

猿害が増えた原因

サルは稲、サツマイモ、大根など、ほとんどの農作物を好んで食べます。田畠は荒らされ、収穫ができなくなるのは農家にとつて大変深刻な問題です。

「農業をしている者にとって、野生動物の問題は切つても切れない関係です」と話す明石さんもシイタケ栽培を家業とし、猿害に困っているひとりでした。サルどこネットの活動に関わるようになったのも猿害対策を始めたことがきっかけだったそうです。

このようないく間に里山や田畠へ入ることが少なくなり、山で暮らしていたサルにとつて「人里は安全においしいものが食べられる工場」と化してきたのです。

山を行動域としていたサルと人間の生活域である集落との間にあつた境界線が今、なくなっています。

さらに人里近くで農作物を食べている母ザルは栄養状態がよく、出産回数が増えます。そのためサルの数は増加傾向にあり、猿害を拡大させています。

群れの動きを知つて、猿害対策を！

サルどこネット「サル位置情報システム」

サルどこネットが提供する「サルの位置情報」は各地の調査員によって日常的に群れの追跡調査が行われ、その都度発信されています。

調査はまず、受信器を積んで車に乗り、群れが居そうな場所へと向かいます。電波発信器から発する群れごとの周波数の電波を受信して、次に指向性のあるアンテナを用いて方向を特定し、段々と目指す群れの位置を探つていきます。

そして調査員が群れの位置を確認すると、携帯電話などで情報の取得と送信を行います。この位置情報データは誰でも携帯電話お

球温暖化の影響や里山の土地開発など、様々な要因が挙げられます。そのなかでも山で暮らすサルが人里へ下りてくるようになつたのは、農業形態の変化によるものではないかと考えられています。

山村地帯では過疎化が進み、農業に従事する人が少なくなっています。農業の機械化によつて一日中、田畠で作業をする人の光景も昔ほど見られな

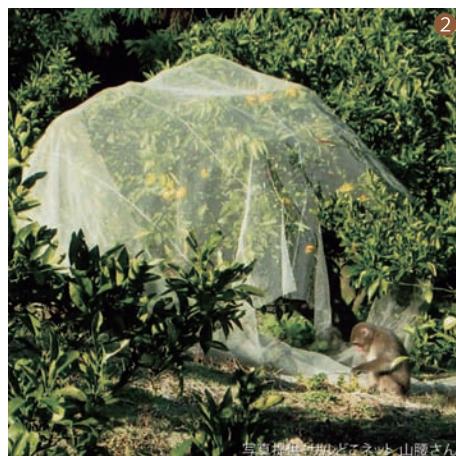
よびパソコン上で閲覧することができる仕組みになっています。

実際に情報を受けている農家の人は、自分の畑にサルが近づくと、できるだけ畑に居るようにして未然に被害を防ぐようにしているそうです。

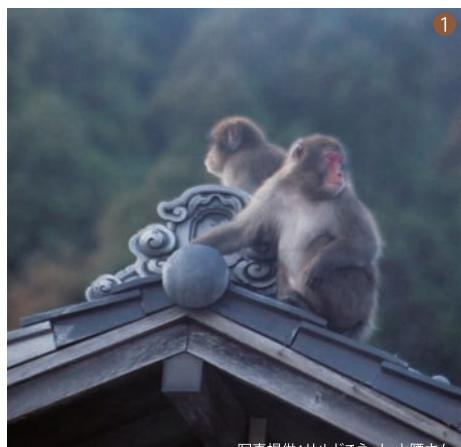
調査を行つて山腰さんは「自分の集落を行動域とするサルの群れの動きを知り、地域ぐるみでの対策を立てるためにサルどこネットからの情報を利用してもらえた

と話してくれました。

効果的な猿害対策の方法は地域によつて異なり、一部の人だけで対策を行うのには限界があります。「サルの位置情報」を共有することによって、損害を地域の課題として認識し、地域単位で具体的な対策を立てていくことが望まれます。



写真提供：サルどこネット 山腰さん



写真提供：サルどこネット 山腰さん

①②サルによる被害は農作物や人家でも見られます。

③アンテナで群れの位置を確認する明石さん。

サルの位置情報がわかる！

○ホームページでいつでも閲覧可能！
MapInfo版
<http://www.sarudoko.net/>
GoogleMap版
<https://sarunet.sarudoko.net/sarunet/>
YahooMap版
<http://www.sarudoko.net/moon/view.cgi>

○Twitter発信中！ @sarudokonet

○サルどこネットホームページ
<http://www.sarudoko.net/venus/>

